

国司館の解明進む

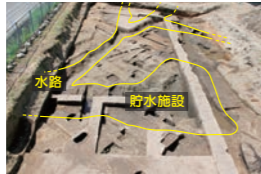


オレンジ色の線は古代道路跡の位置です。多賀城南側の平地には、東西、南北方向の道路を基準とした畷盤自状の街があり、多くの人々が住んでいました。

山王遺跡多賀前地区 (多賀城市)

【復興調査】三陸沿岸道路建設事業

山王遺跡は、平安時代前半(9～10世紀)の日本有数の古代都市として全国的に知られています。メインストリートである東西大路南側の区画は、都から多賀城に派遣された国司の住まい(国司館)で、庭園には遣り水(折れ曲がるように流れた水路)がつけられました。庭園では、郡司らを招いて饗宴などが行われていたとみられます。



遣り水遺構の水路につながる大きな穴は、貯水施設と考えられます。



平安時代の貴族の住まいで、庭に遣り水が描かれています(「北野天神縁起絵巻」)。

古代の宴会で使われた器



穴の中に、大きささまざまな形の食器が捨てられていました。食器はすべて土師器と呼ばれる素焼きの土器です。

涌沢遺跡(山元町)

【復興調査】常磐自動車道路建設事業

奈良時代から平安時代前半の竪穴住居跡が20軒以上見つかりました。また、10世紀に掘られた2つの穴からは、それぞれ100個以上の食器が出土しました。当時の人々が、宴会で使用した食器をまとめて捨てた跡と考えられます。このほか、銅製の鏡も出土していることから、遺跡は一般的なムラとは異なり、巨理郡の有力者が住む集落だった可能性があります。



瑞花双鳥文鏡(10世紀)



土器には墨で「田人」(田畑で働く人)などの文字が書かれたものもあります。

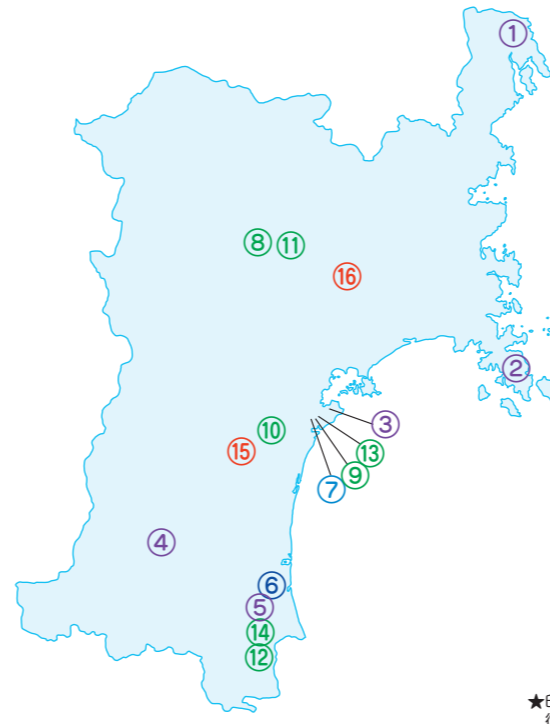
平成24年度 宮城の発掘調査パネル展

宮城県教育庁文化財保護課

宮城県には、旧石器時代から江戸時代まで6,170カ所の遺跡があります。これらは私たちの祖先が残した貴重な遺産であり、大切に保存し後世に伝えていくことは私たちの責務と考えております。県教育委員会は、これらの保護と活用に全力をあげて取り組んでおりますが、開発に伴って姿を消す遺跡もあり、それに対しては、やむを得ず発掘調査を実施して記録に残すことにしています。

このたび、平成24年度に行った発掘調査の中で、特に注目すべき成果があった遺跡や遺物をパネルで紹介することにいたしました。本県では、東日本大震災の復興事業に伴う発掘件数が増加しており、県教育委員会は全国から集まった派遣職員の支援を得て、調査の早期終了を目指しています。今回は、こうした遺跡の調査成果も多く取り上げています。この機会に遺跡に親しみ、文化財の保護に対して御理解を深めていただければ幸いです。

今回の展示にあたって快く御協力をいただきました各教育委員会・機関に対し、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。



★印は、東日本大震災の復旧・復興調査

時代	世代	主な出来事	パネルの遺跡
旧石器時代	約400万年前	アフリカで人類が誕生する	
	約50万年前	北京原人が洞窟で生活する	
縄文時代	約3万年前	後期旧石器時代が始まる	
	約1万6千年前	土器・弓矢が出現する	★①波怒棄館遺跡(気仙沼市) ★②中沢遺跡(石巻市) ★③大木田貝塚(七ヶ浜町) ★④谷地遺跡(蔵王町) ★⑤谷原遺跡(山元町)
弥生時代	約5000年前	三内丸山遺跡(青森県)で集落が営まれる	★⑥中筋遺跡(山元町)
	紀元前400頃	東北地方で米作りが始まる	
古墳時代	紀元後300頃	吉野ヶ里遺跡(佐賀県)で集落が営まれる	
	紀元後300頃	豪族が盛んに古墳を造る	★⑦山王遺跡八幡地区(多賀城市)
飛鳥時代	607	推古天皇、小野妹子を隋に遣わす(遣隋使)	
	645	大化の改新	
奈良時代	710	平城京(奈良市)に都を移す	⑧権現山遺跡(大崎市)
	724	多賀城が築かれる	★⑨特別史跡多賀城跡(多賀城市)
平安時代	752	東大寺の大仏が完成する	★⑩与兵衛沼澤跡(仙台市宮城野区)
	780	伊治公弑麻呂の乱が起こる	⑪団子山西遺跡(大崎市)
鎌倉時代	794	平安京(京都市)に都を移す	★⑫上宮前北遺跡(山元町)
	869	貞観大地震で多賀城が大きな被害を受ける	★⑬山王遺跡多賀前地区(多賀城市)
室町時代	1167	平清盛が太政大臣となる	★⑭涌沢遺跡(山元町)
	1192	源頼朝が征夷大将軍になる	
徳川時代	1274・1281	文永・弘安の役(元寇)が起こる	
	1338	足利尊氏が室町幕府を開く	
江戸時代	1467	応仁の乱が起こる	
	1590	豊臣秀吉が全国を統一する	
明治時代	1600	仙台城の築城が始まる	
	1603	徳川家康が江戸幕府を開く	★⑮仙台城跡(仙台市青葉区) ★⑯涌谷伊達家墓所(涌谷町)
戦後	1868	明治維新	

「元文」と刻まれた石を発見



本丸北西石垣は、3カ所で崩落したほか、広い範囲で変形しました。

史跡仙台城跡 (仙台市青葉区)

【復興調査】仙台城跡本丸石垣復旧工事

東日本大震災で崩れた石垣を解体していたところ、「元文」と刻まれた石材が発見されました。仙台藩の記録によると、元文元年(1736)3月に地震があり、幕府に石垣の修理を願い出ていることから、石材はその際に使われたと考えられます。



裏側に小さな石を詰めて固定しています。



石垣に使われた石に「元文」と刻まれています。

伊達安芸宗重の御霊屋と確認



青磁の香炉と蓋(内容器)



杉材の曲げ物(外容器)

曲げ物に書かれている「見龍院殿徳翁居士」とは、伊達安芸宗重の戒名です。

涌谷伊達家墓所 (涌谷町)

【復旧調査】石製五重塔復旧事業

東日本大震災で変形した石造五重塔を積み直していたところ、第三層から遺灰が入った容器が発見されました。遺灰は青磁の香炉に納められたのち、木製の曲げ物に入れられています。曲げ物には「見龍院殿(真)身舍利」と書かれていたことから、遺灰は伊達騒動で命を落とした伊達安芸宗重のもので、五重塔は宗重の御霊屋と考えられます。



被災前と後の五重塔です。上層になるほど歪みが大きくなり、相輪は地面に落ちて壊れています。



曲げ物は、中央に開けられた直径10cm、深さ9cmの穴に入っていました。

海辺の高台で暮らした縄文人



写真奥に見えるのは、津波で甚大な被害を受けた大沢集落と広田湾です。遺跡はそれらを望む高台にあります。

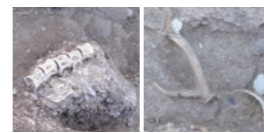
波怒棄館遺跡 (気仙沼市)

【復興調査】高台移転事業

丘陵の斜面で、縄文時代早期末～前期(約5,500～7,400年前)のゴミ捨て場が見つかりました。ゴミ捨て場からは、縄文土器や貝殻、骨などが出土しました。縄文の人々は、海、山どちらにも近いという、三陸の自然を巧みに利用して食料を得ていたと考えられます。



調査は気仙沼市が主体となり、県や全国から派遣された調査員とともに迅速に進めています。



マグロの骨やシカの角などが見つかりました。

太平洋を望む縄文時代の集落

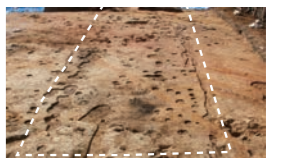


遺跡は、西側に太平洋を望む標高30mの丘陵上にあります。

中沢遺跡(石巻市)

【復興調査】高台移転事業

牡鹿半島の丘陵にある縄文時代前期(約5,500～7,000年前)の遺跡です。丘陵上の平坦な部分には竪穴住居がつけられ、その中には長辺が13mもある大型住居がありました。周辺の斜面や沢はゴミ捨て場となっており、土器や石器が多く出土しています。



長方形の大型住居跡で、柱は長辺に沿って立てられました。



槍の先やナイフとして使われた石器です。右端の石器の長さは15cmあります。

石巻市教育委員会(中沢遺跡)、大崎市教育委員会(権現山遺跡)、気仙沼市教育委員会(波怒棄館遺跡)、蔵王町教育委員会(谷地遺跡)、七ヶ浜町教育委員会(大木田貝塚)、仙台市教育委員会(与兵衛沼澤跡・仙台城跡)、多賀城跡調査研究所(多賀城跡)、山元町教育委員会(谷原遺跡・中筋遺跡)、涌谷町教育委員会(涌谷伊達家墓所)

文化財保護課のホームページアドレスは、<http://www.pref.miyagi.jp/bunkazai/index.htm>



埋蔵文化財は、国や地域の歴史と文化の成り立ちを明らかにするうえで欠くことのできない国民共有の財産であり、また、これらを解明するうえで発掘調査は必要不可欠なものです。このため、文化庁では「発掘現場から文化力」のロゴマークを作成し、広くロゴマークを推奨し活用することで、国民や地域住民に埋蔵文化財や発掘調査に対する正しい理解と協力を促進することを目的としています。背景のカラーは発掘調査にふさわしい茶系系統を使用しています。

縄文時代 墓に埋葬された縄文人



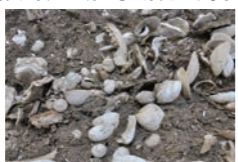
墓穴は長さが100cm、幅が60cmで、成人が埋葬されていました。

③史跡大木田貝塚 (七ヶ浜町)

大規模な貝塚として知られ、著名な研究者により発掘調査されてきた有名な遺跡です。縄文時代の墓や貝層が確認されました。墓は楕円形で、縄文人が「屈葬」と呼ばれる膝を曲げた状態で埋葬されていました。また、貝層から様々な貝殻や骨が出土し、松島湾沿岸で暮らした縄文人の食生活を考える上で貴重な資料が得られました。



丘陵の斜面に沿って貝層が分布しています。豪雨で崩れた斜面の調査で墓が見つかりました。



アサリ、カキなどの貝殻のほか、マグロやシカ、クジラなどの骨が見つかりました。

縄文時代後期の環状集落



人の立つ場所が柱の位置を示します。調査は平成23・24年度に行われ、写真は平成23年度調査区の北側にあたります。

⑤谷原遺跡 (山元町)

【復興事業】常磐自動車道路建設事業

縄文時代後期初頭(約4,500年前)の「環状集落」で、中央の広場(直径約25m)を囲むように建物が配置されています。建物の周囲には食料の貯蔵用に掘られた穴があり、集落の南側には当時の人々が土器や石器などを捨てたゴミ捨て場が広がっていました。

宮城県東部の沿岸部では初めて、縄文時代のムラのすがたが分かる重要な発見となりました。



縄文時代の土偶70点以上を発見

④谷地遺跡 (蔵王町)

縄文時代中期頃(約4,500～5,500年前)の集落跡です。竪穴住居跡や食料を蓄えた貯蔵穴などから縄文土器や石器が多数出土しました。特に土偶が70点以上出土しているのが注目されます。これほど多くの土偶が県内で出土することは珍しく、縄文時代の祭祀を知る上で貴重な発見となりました。



土偶は、すべて破片の状態です。縄文時代中期の土偶は、頭や腕の表現は大胆に省略され、尻が突き出しています。右の写真は、完全な形の出土した土偶の例です(中の内A遺跡 東北歴史資料館1996『東北地方の土偶』より転載)。

遺物が見える遠くのムラとの交流



硬玉(ヒスイ)製の垂飾品です。長さは3.6cmで、新潟県から持ち込まれた交易品と考えられます。

弥生時代 津波?に襲われた弥生時代の水田跡



堆積した砂の層を注意深く取り除くと、当時のあぜ道が姿を現しました。一枚一枚の水田は現在のものよりかなり狭く、「小区画水田」と呼ばれています。

⑥中筋遺跡 (山元町)

【復興調査】常磐自動車道路建設事業

大量の土砂に覆われた弥生時代中期(約2,000年前)の水田跡が発見されました。この土砂は、津波で運ばれてきた可能性があるため現在分析が進められています。



稲刈りに使った「右包丁」も見つかっています。

平成19年に調査された仙台市若林区の沓形遺跡でも、同じところに津波に襲われた水田が発見されており、関係が注目されています。

古墳～飛鳥時代 豪族居館?の区画施設跡を発見



堀の外には3.2m離れて大溝が平行しており、南北70m以上続いていました。

⑦山王遺跡八幡地区 (多賀城市)

【復興調査】三陸沿岸道路建設事業

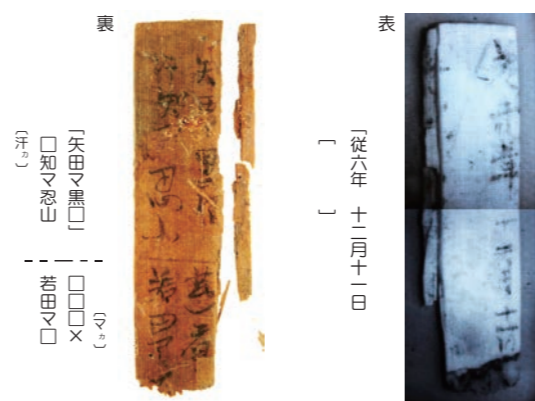
古墳時代中期(5世紀前半)の堀跡と大溝跡を発見しました。西側の住居群を囲む施設と考えられます。以前の調査で、北を流れる河川跡のゴミ捨て場から、鹿角製の杖や大刀の飾りなどが出土しました。このため、堀や河川で囲まれた一画は豪族が住み、地域の支配を行った豪族居館と推定されます。



左が大刀の飾り(長さ9cm)、右は杖の飾り(長さ8.5cm)です。平成2年の調査で出土しました。



奈良～平安時代 奈良時代の木簡が出土 兵士の出勤簿か



木簡は縦14cm、横4cmあり、勤務した人の名前と勤務開始日を記録しています。「マ」は「部」の略字体です。

⑧権現山遺跡 (大崎市)

表に年月日、裏には「矢田部」、「若田部」など4人の氏名が書かれた木簡が出土しました。年号の「六年」は、和銅6年(712)、養老6年(722)、もしくは天平6年(734)のいずれかと考えられます。本遺跡は、役所と軍事施設が一体となった城柵であることから、木簡はそこに勤務した兵士の出勤簿とみられます。



遺跡の外側は、材木堀と大溝で囲まれています。材木堀は、木を隙間なく立て並べた区画施設で、材木の直径は20cmありました。

沼の底から見つかった古代の窯跡

⑩与兵衛沼窯跡 (仙台市宮城野区)

【復旧調査】被災堤防の修復・復旧事業

復旧工事のため沼の水位を下げたところ、沼底から奈良時代中頃(8世紀中頃)の瓦を生産した窯跡13基や瓦を製作した工房跡が確認されました。軒先を飾る瓦の中には、唐草文様が施されたものがあります。生産された瓦は、陸奥国府多賀城や陸奥国分寺・国分尼寺などに供給されました。



5基の窯の焚口付近が残存していました。窯跡の周囲の土は高熱を受けて赤く変色しています。



【参考資料】唐草文様が施された瓦(陸奥国分寺跡 東北大学蔵) (東北歴史博物館 2010『多賀城・大宰府と古代の部』より転載)

規則的に並んだ古代の建物跡群



中央の広場を囲むように建物跡が並んでいます。

⑪団子山西遺跡 (大崎市)

【復興調査】常磐自動車道路建設事業

奈良・平安時代の城柵である新田柵跡の南側にあり、これまでの調査で、南北道路跡などが確認されています。新田柵跡から約500m離れた場所で、道路と方向を揃えて規則的に配置された建物跡群が発見されました。年代は、奈良時代後半～平安時代前半(8世紀後半～9世紀)とみられます。新田柵の南側には、道路を基準とした建物群が広い範囲につくられた可能性が高まりました。



古代の道路跡や建物跡は、新田柵跡南側の平地で発見されました。

40年ぶりに姿を現した多賀城正殿跡



第II期以降の礎石式正殿は、高さ40cmの基壇の上に建てられており、規模は東西22.8m、南北12.0mありました。

⑨特別史跡多賀城跡 (多賀城市)

【復旧調査】正殿の再整備事業

多賀城の中心施設である正殿跡を約40年ぶりに発掘調査しました。正殿は第I期「掘立式」建物で、第II期からは礎石式建物になります。再調査の結果、第II期の正殿は伊治公麻呂の反乱(780年)で焼失していたことがわかりました。さらに、第III期の正殿は貞観大地震(869年)で被災し、再建された可能性が考えられるなど、大きな成果が得られました。



第II期正殿復元模型 (東北歴史博物館蔵)



第I期の柱穴と礎石の重複状況です。柱穴は一辺が1.4mの方形で、深さは1.4mありました。

多賀城の年代

第I期: 724年～762年、第II期: 762年～780年、第III期: 780年～869年、第IV期: 869年～11世紀中頃

用語解説 ◆右包丁: 稲刈り用の磨製石器。半月形で、稲穂を刈った。◆郡司: 国司のもとで郡を治めた役人。地元の有力者から選ばれた。◆国司: 国を治めるために都から派遣された役人。◆霊屋: 葬式後の遺体や遺灰を納めた施設。◆箱形炉: 砂鉄を溶かして鉄を取り出した装置。四角い浴槽のような形をしていた。◆木簡: 文字が書かれた短冊状の木の札。